



三月の声を聞くと、寒さとは関係なく、春がやってきたなと思う。ようやく梅も咲き始めグレー色だった境内も急に華やいだ感じがしてくる。この頃になるとメジロが蜜を求めてやって来るが、今年最初の訪問は2月8日だった。まだ蕾が固かったせい、すぐにどこかへ行ってしまった。メジロは番での行動が多いように思うが、この日はなぜか一羽だけだったのは少々淋しい気もした。(つがい)

ところで、団塊世代の退職者が増え、その後の生きざまに少し興味を持ってながめている。興味と言っては失礼だが退職後の人生を「余生」と受け止めていらっしゃる場合が気になるのだ。人生に余った人生や、あまりの人生等あるのだろうか？「一寸先もわからない人生」が真実であると受け止めた時、生まれてから今日までが、この私に与えられた無駄にできない貴重な人生ではないのか。人生の節目としての決断めいた思いだろうが、「想定通り」にはいかない人生であることを、重々認知しておかなければ今を生き切る、重みのある人生を歩むことができないのではないだろうか。

この頃思いつく

「人生の節目談義」に代わってより親しみやすいタイトルにしました。

遍満する慈悲にうねる

M M

信心の深まりは、知識の豊富さよりも、御仏の慈悲を捉える鋭い感性にあることは周知のことですが、易行難信と言われるように、言いつくして大変難しいものと考えられます。

親鸞聖人と私どもの決定的な違いは、仏の心を捉える信の深さだと思われれます。仏事の最後につたわれる恩徳讃を聴きますと「身を粉にしても」とか「骨を砕きても」と言った激しい言葉に圧倒されてしまいます。これは御仏の恩徳を高いレベルで捉えた結果だと思われれます。

歎異抄の結び文には、よく引用される一節があります。五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞ひとりのためなりけり、さねば、そへはへの業をもちける身にありけるを、たすけんとおぼしめしたちける、本願のかたじけなさよ」と述懐されていますが、この記述からは慈悲に感じる次元の高さを覚えすにはいられません。

妙高人も20年以上の気永い精進の中で、慈悲を感得されたと聞いています私どもは、平素から身の回りを注意深く見しめることを怠らず、時間をかけて鋭敏な感性を磨き上げることが、最も大切な課題だと切に思う次第です。

三月二十日(春分の日)は

午前・午後

お齋ちきあります。

法話 午前 里雄 敬意師 午後 住職

春季永代経

本年は寒さが厳しかったこともあり、梅の開花時期がずいぶん遅れました。三月二十日には枝垂れ梅もちょうど満開かと思われる。是非ご参詣ください。



改修工事状況 最終

おおよそ十か月にわたって行われた改修工事も、ほんの一部分を除いてようやく終わりました。

山門工事も細かな飾り部分の取り付けを残して終わり、三年計画で考えていた内陣等の修理・補修工事等の大きなものは、消費税等の問題を鑑み、この改修工事に合わせて行いました。

二月二十五日現在では、庭の一部復元工事、櫃の調整と一部取り付け工事、手すりの設置といったところを残していますが、ほぼ完成をしました。

完成の光受寺を皆様方にぜひ見ていただきたいと思っております。梅を見がてらお立ち寄りください。

今後（御遠慮）までに実施したい工事等

○法中（お寺さん）のトイレを改修工事でなくしてしまったので、庫裏のトイレに続く、縁の修理と庇の取り付け工事。

○境内の塀の塗装工事等です。



ほぼ完成した山門です。すべて予算内で棟梁が頑張りました。材料も良いものばかり、住職感謝しています。
黄色の塀の汚れが・・・



先代のものより大きくなったせいか、重厚感があります。

欄間三枚金箔押し、巻き障子全面お洗濯。見違えるような輝き。須弥壇も洗濯致しました。



トイレ部分が床の間に。書院展会期中。桃の節句にかかわる作品展示。



客殿入口。右端に手すりが付きます。

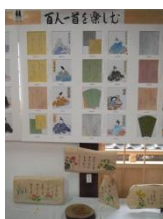
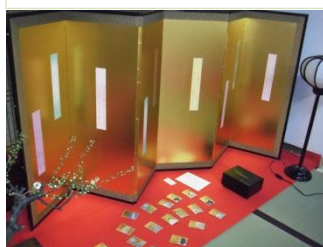
第三十回記念 秀瑤書院展

開催

二月二十五日(土)～
三月四日(日)まで

光受寺の本堂を使わせていただき、書院展を開かせていただきました。

来年はお休みの年となるようです。



木に遊ぶ

ここにも春が！



梅情報

まだまだこれからといったところ。見頃三月十日以降



飛龍梅



二月二十五日現在 枝垂れ

三月十日(土)は 六時半より

クリスマスローズ



クリスマスローズ



椿